

フ ラ イ バ ー グ 病



フライバーク病

症状

◆フライバーク病とは—

フライバーク病は中足骨に発生する骨頭壊死で第2ケーラー病と呼ばれることもある。骨端症のひとつで10歳代を中心に発症し、女性に多いとされている。



中足骨頭の骨頭壊死

◆症状

MTP関節（中足趾節関節）背側の腫脹および疼痛、特にMTP関節伸展時の痛みを訴える。足底に胼胝を形成することもある。好発部位は第2中足骨でついで第3中足骨、第4中足骨で第5中足骨は稀である。進行するとclaw toe（鉤爪趾）やcrossover toeを呈することもある。

原因病態

◆原因

スポーツや外傷を機に痛みを発症することが多く、発症には中足骨頭に加わる繰り返す衝撃や、MTP関節背側に徐々に加わる負荷が原因の一つと考えられている。

◆病態

第2-3中足骨長が相対的に長く、足部の内側趾列への荷重が十分にかけられてないことや、リスフラン関節の柔軟さやMTP関節の安定性、先天性な腓腹筋の拘縮、ハイヒールの使用によるMTP関節背側へのストレスなどが原因で、中足骨骨頭の虚血が起これり中足骨骨頭背側に変形が生じる。

中足骨頭への衝撃や
MTP関節背側へのストレス



診断

◆足部単純X線

単純X線正面、斜位像にて骨頭の変形を確認できる。Smillie分類は治療法を選択する際に用いられる。

◆CT検査

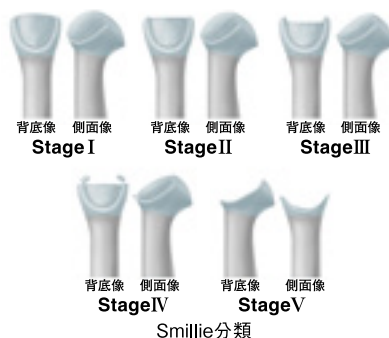
三次元CTは壊死の形態や範囲を確認でき、術前計画に有用である。

◆MRI検査

痛みの出現後3～6週間は単純X線で明らかな変形が確認できないこともあり、その際はMRIが診断に有用である。



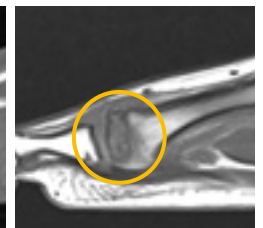
足部単純X線



Smillie分類



CT



MRI